

リクルート活動中の学生の皆様へ

コロナ感染を防ぐための注意事項

IMS グループ本部事務局

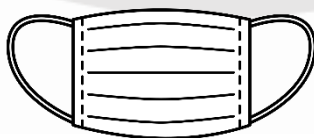
学生の皆さんがコロナ感染することなく健やかにリクルート活動していけるよう以下の点に注意してください。

ウイルスは通常粘膜による感染が主で感染経路としては口腔・鼻・眼から侵入します。皮膚表皮からの感染の可能性はほぼ無いといえます。コロナウイルスは唾液に含まれることが多く会話時の飛沫による感染がほとんどです。(マスクも通気性・浸透性が高いものであれば予防効果はないので注意) 要は口・鼻をマスクでガードしていればほぼ感染を防ぐことができます。しかし、マスクを外した時に手をなめたり、目をこすったり鼻をほじったりすると手指にウイルスが付着しているとウイルスが口腔・鼻・眼から侵入をします。通学・買い物・帰宅の際にまめに手指消毒を励行することが感染予防につながります。また、マスクの表皮にウイルスが付着していることもあることからマスクを着脱の際はひもの部分を持ち着脱してください。マスクは外出や人との接触機会が多ければその機会ごとに新しいものに変えた方が感染予防の観点では効果的です。

ウイルスが侵入すると人間の体内にある自然免疫がウイルスを排除しようとしませんが自然免疫による抑制が効かずウイルスが増殖を開始した状態を「感染」と呼びます。コロナウイルスはこの過程が不明で無症状で感染していることが多くあらゆる人が感染していると想定して予防をしていかなければなりません。

マスクを外し会話することが感染リスクの高い状態でこういったシチュエーションを回避することが日常生活上で最も重要であります。(飲食時に近距離で複数人で会話した場合、無症状感染者がいれば感染リスクは極めて高くなります。)

感染すると指定感染症なので保健所より隔離し行動制限されます。リクルート活動に大きな制限となりますので自身及び家族にも感染を予防する行動を徹底し健やかにリクルート活動が展開できるよう願っております。



IMS グループにおける新型コロナウイルス感染症への対応について

(これから IMS グループで働くことをお考えの皆様へ)

当グループでは院内感染防止のため、下記の様々な感染対策を講じご安心して就業頂ける環境が整っております。

記

01 具体的な感染防止対策

- ・全職員に対するマスクの配布と着用の徹底
- ・1 処置 1 消毒（手洗い）の徹底
- ・オフピーク出勤、時差出勤、マイカー通勤の推奨
- ・対面で応対する場所へのフィルムシールド、アクリル板の設置、常時触れる範囲の清掃・除菌を強化

02 職員の健康チェック及びサポート制度

- ・全職員に対する毎朝の検温、体調管理及び報告の徹底及び業務応援
- ・濃厚接触者となった場合の自宅待機要請とその間の休業補償サポート
- ・**グループの検査機関による感染検査**の実施による迅速な診断

検査研究所と 20 の病院にて 34 台の検査機器を保有し患者様、職員（職員家族）に約 19,000 件／月の検査を迅速に実施し感染拡大防止に努めています。

- ・職員のワクチン接種率 90%

03 職員意識・その他

- ・職員向けのマニュアルを配布し、医療従事者としての【うつらない・うつさない】徹底
- ・学会等大規模イベントや会議を自粛、3密を回避した形の WEB を利用した会議の実施

04 各職場での対策

薬剤師

必要に応じて感染防護具（N95 マスク、ゴーグルなど）を使用、感染制御認定薬剤師等を中心とした感染対策の励行、短い時間で理解を深めるために資材を用いた服薬指導、外来等ではアクリル板等を介した服薬指導

診療放射線技師

全モダリティ機器に患者撮影ごとに機器のアルコール消毒の励行

陽性患者および発熱患者にはN95 マスク・フェイスシールド（ゴーグル）・感染防護着の着用

リハビリ部門

施術時のマスク・ゴーグルの常時着用

セラピストの接触情報管理による濃厚接触者の特定

感染拡大防止のため病棟専従制による移動制限

各施設技師長間の感染発生事例と対策の共有

Presenteeism（疾病就業）を防止するための柔軟な勤務調整（急な体調不良でも気兼ねなく安心して休める）

臨床工学技士

患者様対応時にN95 マスク・ゴーグル常時着用

COVID-19 感染（疑い含む）患者の人工呼吸器使用に際して人工鼻の使用や呼気側へのフィルター設置による飛沫対策を実施。

栄養部門

配膳車、冷蔵庫等取っ手、ドアノブの次亜塩素酸消毒（3回/日）の実施

栄養指導室にアクリル板（ビニールカーテン）設置

栄養指導時にマスク、ゴーグル（フェイスシールド）着用

ソーシャルワーカー（SW）部門

病棟患者対応及び家族面談時にマスクおよび、必要に応じてフェイスシールドまたはゴーグル着用

面談室にアクリル板設置

電話相談による対応の励行とコミュニケーションエラーを防ぐための確認の徹底

臨床検査技師

コロナ検査時に検査技師はN95 マスク・手袋・感染防護着・ゴーグル、病棟にて個人携帯アルコール消毒剤の保有による頻回な消毒、生理・内視鏡検査、病棟ポータブル検査時のN95 マスクの着用

事務職

受付等にアクリル板（ビニールカーテン）設置、各要所にアルコール消毒剤を設置し頻回な消毒の実施、状況に応じて感染防護具（N95 マスク、ゴーグルなど）を使用

